

The logo for JETRO (Japan External Trade Organization) is displayed in a blue, serif font. The background of the slide features a dark blue geometric shape on the left and a world map in a lighter blue tone on the right.

JETRO

# 中国華南地域における脱炭素関連の 中資・外資系工場の取り組み

日本貿易振興機関（ジェトロ）  
広州事務所  
2025年2月

## I. 脱炭素関連の政策方針

## II. 調査対象企業リスト

1. 約克広州空調冷凍設備
2. 達能（中国）食品飲料
3. 埃克森美孚（惠州）化工
4. 緯創資通（中山）
5. 広東紐恩泰新能源科技股份
6. 蒙娜麗莎集团股份
7. 華潤電力控股
8. 広東小鹏汽車科技
9. 日立電梯（中国）
10. 広汽豊田汽車

# 1 | 全国政策概要：「2024～2025年省エネ・炭素削減行動プラン」

## 全体要件

- 2024年全体目標として、単位GDPあたりのエネルギー消費量と二酸化炭素排出量をそれぞれ約2.5%、約3.9%引き下げる。一定規模以上の工業企業（注1）における単位付加価値あたりのエネルギー消費量を約3.5%引き下げ、非化石エネルギー消費の割合約18.9%を達成する。重点領域・業界の省エネルギー・炭素削減により、標準石炭換算で約5,000万トン削減、二酸化炭素排出量を約1億3,000万トン削減する。
- 2025年は非化石エネルギー消費の割合を約20%にし、重点領域・業界の省エネルギー・炭素削減目標は、標準石炭を約5,000万トン、CO2排出量を約1億3,000万トン削減する。第14次五カ年計画（注2）の省エネルギー・炭素削減の目標を達成するため最大限の努力を行う

## 重点ミッション（抜粋）

- **化石エネルギー消費量削減行動**：①**石炭の消費を厳格に管理する**。石炭のクリーンで高効率な利用を強化し、石炭火力発電の低炭素化改造と建設を推進する。大気汚染防止重点地域の石炭消費総量規制を厳格に実施し、電力以外の石炭消費の削減に重点を置く。②**石油・ガスの消費構造を最適化する**。非伝統型のオイル・ガス資源の大規模開発を加速する。石油の消費を合理的に管理し、先進的なバイオ液体燃料、持続可能な航空燃料を普及させる。
- **非化石エネルギー消費拡大行動**：①**非化石エネルギーの開発を強化する**。2025年末までに、全国の非化石エネルギー発電量の割合約39%を達成する。②**再生可能エネルギーの利用能力を高める**。揚水エネルギー貯蔵、新型エネルギー貯蔵、マイクログリッド、バーチャル発電所など新技術・新モデルを開発する。③**非化石エネルギー消費を促進する**。第14次五カ年計画の最後の2年間の新規の高エネルギー消費プロジェクトは、非化石エネルギーの消費比率は20%を下回ってはならず、地方が実態に応じて、比率要件を引き上げることを奨励する。

（注1）その年の主な業務による売上高が2,000万元以上の工業企業。  
（出所） 国務院「2024～2025年省エネ・炭素削減行動プラン」

（注2） 第14次五カ年計画に当たる期間は2021～2025年。

## 2 地方政策概要：「広東省におけるカーボンピークアウト実施方案」

### 主要目標

- 第14次五カ年計画期間中、グリーン低炭素循環発展の経済体系の基本を形成し、産業・エネルギー・交通構造の再構築を大きく進展させ、社会全体のエネルギー資源利用と炭素排出効率を持続的に向上させる。**2025年までに、非化石エネルギー消費の割合を32%以上にする**ことを目指し、GRP当たりのエネルギー消費と二酸化炭素排出については**国家目標の達成を確実にし**、全省のカーボンピークアウトの達成に向けて堅固な基礎を築く。
- 第15次5カ年計画（注）期間中、経済社会のグリーン転換において著しい成果を上げ、クリーンで低炭素・安全で効率的なエネルギー体系を初期的に確立する。国際競争力のある質の高い現代産業システムの基本と、社会全体にグリーンで低炭素の生産・生活スタイルを広く形成する。**2030年までに、GRPあたりのエネルギー消費と二酸化炭素排出の管理水準は引き続き全国の先頭を走り、非化石エネルギー消費の比率は約35%を達成し、2030年までのカーボンピークアウトを実現する。**

### 重点ミッション（抜粋）

- **高エネルギー消費・高汚染排出・低レベルなプロジェクトによる闇雲な開発を抑制。**高エネルギー消費・高汚染排出のプロジェクトに対してリスト管理・分類処理・モニタリングを実行。進行中のプロジェクトに対して総合的な調査を実施し、エネルギー効率レベルを可能な限り向上させ、国内はもとより国際的な先進レベルの達成を目指す。計画中のプロジェクトを科学的に評価し、生産能力が既に飽和している業界に対して、「減量と代替」の原則に従って生産能力を圧縮、まだ飽和していない業界では国際先進レベルに合わせて参入障壁を引き上げる。既存プロジェクトを掘り下げ、法律に従い後進的で非効率的な生産能力を淘汰し、業界全体のエネルギー効率レベルを高める。2030年までに、鉄鋼、セメント、石油精製、エチレンなど主要産業の全体的なエネルギー効率レベルと炭素排出強度を国際先進レベルに引き上げる。
- **輸送用器具・装備の低炭素化を推進。**2030年までに、新エネルギーとクリーンエネルギーを動力とする輸送用車両の割合を約40%にし、電動乗用車の販売量は乗用車の新車販売量の30%以上を実現する。商業用交通機関の回転率当たりの炭素排出強度は2020年と比較して約10%減少させ、鉄道の回転率当たりの総合エネルギー消費は2020年と比較して10%減少させ、陸上輸送の石油消費量は2030年までにピークに達することを目指す。
- **工業重点分野のカーボンピークアウト。**グリーン製造を積極的に推進し、よりクリーンな生産を推進し、産業全体のエネルギー効率レベルを持続的に向上させ、鉄鋼、石油化学工業、セメント、窯業、製紙など重点産業で省エネと炭素削減を推進し、産業全体の秩序あるカーボンピークアウトの達成を後押しする。

（注）第15次五カ年計画に当たる期間は2026－2030年。

（出所）広東省政府「[広東省炭達峰実施方案](#)」

## I. 脱炭素関連の政策方針

## II. 調査対象企業リスト

1. 約克広州空調冷凍設備
2. 達能（中国）食品飲料
3. 埃克森美孚（惠州）化工
4. 緯創資通（中山）
5. 広東紐恩泰新能源科技股份
6. 蒙娜麗莎集团股份
7. 華潤電力控股
8. 広東小鹏汽車科技
9. 日立電梯（中国）
10. 広汽豊田汽車

# 1 | 約克広州空調冷凍設備

- 主に業務用エアコンを製造。グリーンサプライチェーンの構築や工場での太陽光発電の導入、製品に使用する冷媒充填量の削減などを通じて、カーボンニュートラルに取り組んでいる。

- ・ **設立年**：1995年
- ・ **所在地**：広東省清遠市仏岡県
- ・ **親会社**：米・ジョンソン・コントロールズグループ
- ・ **主要事業**：  
セントラルエアコン、  
業務用・住宅用エアコンを主に製造
- ・ **グループ沿革（一部）**：  
**1874年**  
米国ペンシルベニア州の  
ヨークタウンに設立  
**1885年**  
世界初の冷凍機を発明  
**1907-1908年**  
海外進出  
**1995-1996年**  
広州市と無錫市に生産基地を建設  
**2005年**  
ジョンソン・コントロールズが  
ヨーク・インターナショナルを買収
- ・ **グループサイト**：  
<https://www.york-iwe.com>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	親会社ジョンソン・コントロールズは2024年に発表した持続可能な発展報告書で、 <b>2040年までに二酸化炭素排出量をネットゼロ</b> にすることを約束した <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーンサプライチェーンの構築</b>：グリーンサプライチェーン管理を会社の発展計画に取り入れ、同時に「グリーンサプライチェーン管理発展計画」を作成し、管理委員会を設置。ERP、MES、E2OPENなどの情報システムを通じて、サプライヤーの情報を統合し、グリーンサプライチェーン管理のデータプラットフォームを構築。これに加えてサプライヤーの原材料と補助材料生産のエネルギー消費、排出を評価する採点メカニズムを構築して、エネルギー消費と排出が相対的に高いサプライヤーを排除し、原材料と副資材供給のグリーン化率を高めている<sup>2</sup>。</li> <li>・ <b>グリーンエネルギー使用</b>：2023年、工場の屋根に占有面積5,331.8平方メートル、発電能力1,186.8キロワットピーク(KWp、注)の太陽光発電設備を設置するプロジェクトを申請。年間平均発電量は115万kWhを見込まれる<sup>3</sup>。</li> </ul> <p><b>製品に関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>冷媒の使用管理</b>：室外機の冷媒充填量は従来のセントラルエアコンの1/7以下にしており、全体的な二酸化炭素排出量は従来のセントラルエアコンの1/20以下に抑えている（室外機の冷媒充填量を減らすことで二酸化炭素排出量を削減できるため）<sup>4</sup>。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	親会社ジョンソン・コントロールズはゼロカーボングリーン戦略を積極的に推進しており、2023年度に中国工業情報化部から国家級グリーン工場の称号を授与された <sup>5</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>6</sup> 。

(注) 欧州で使用される自然エネルギー発電の発電容量を示す単位。環境により発電量が変動する中で、平均の発電量を表すために使用される。

(出所) <sup>1</sup>企業ウェブサイト <sup>2</sup>緑色製造公共サービスプラットフォーム <sup>3</sup>購入入札情報ウェブサイト <sup>4</sup>約克水生態空調メディアアカウント <sup>5</sup>中国政府ウェブサイト <sup>6</sup>広東省生態環境庁

## 2 | 達能（中国）食品飲料

- スポーツドリンクや栄養ドリンクを製造。リサイクル可能な包装材の導入などを行うと同時に、ボトルキャップに「カーボンニュートラル工場から」と表記することで消費者にもグリーン消費を促す。

- ・ **設立年**：2000年
- ・ **所在地**：広東省中山市小欖鎮
- ・ **親会社**：仏・ダノングループ
- ・ **主要事業**：  
「脈動」低糖/零糖ビタミン飲料、  
「靈汽」ビタミン気泡飲料などの  
製品を製造
- ・ **グループ沿革（一部）**：  
**1987年**  
中国進出  
**2020年～現在**  
上海市にダノン開放科学研究  
センターを設立。  
無錫市に医学栄養品生産基地を  
拡張。  
青島市、長沙市、上海市に  
3つの専門特殊栄養工場を設立。  
中国で合計10箇所の工場を  
構えている。
- ・ **グループサイト**：  
<https://www.danone.com.cn>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	「脈動」は「 <b>全バリューチェーンのネットゼロ炭素排出</b> 」の <b>2050年の実現</b> を目指している。2023年4月、「脈動」傘下の生産工場がカーボンニュートラルを達成した <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>クリーンエネルギーの使用</b>：2017年から太陽光パネル発電プロジェクトを開始し、2023年4月時点の年間発電量は4,500世帯の1年間の電力使用量に相当する。2022年時点で、「脈動」のクリーンエネルギー利用率は66.3%に達した。「脈動」製品が誕生した2003年と比べ、1ボトルあたりのエネルギー消費量は72.2%減少し、生産プロセスの炭素排出量は90%以上減少した<sup>1</sup>。</li> <li>・ <b>グリーンサプライチェーンの構築</b>：全バリューチェーンがカーボンニュートラルを実現するために、「脈動」は100社近くの川上・川下のサプライヤーと提携し、共同で「共に地球を守る」炭素削減イニシアティブを発表し、「全バリューチェーンのネットゼロ炭素排出」を2050年に実現することを約束した<sup>1</sup>。</li> </ul> <p><b>製品に関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>包装材</b>：2021年から「脈動」のボトルは100%リサイクル可能な包装材料で作られている<sup>1</sup>。</li> <li>・ <b>標識</b>：「脈動」のボトルキャップに「カーボンニュートラル工場から」という文字を表記している。より明確な標識を表示することで、グリーン消費を促進している<sup>1</sup>。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	ダノンの発展戦略において、「自然を守り、再生を実現すること」を掲げている <sup>2</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>3</sup> 。

(出所) <sup>1</sup>企業ウェブサイト <sup>2</sup>企業ウェブサイト <sup>3</sup>広東省生態環境庁

### 3 | 埃克森美孚(惠州)化工

- 包装・自動車・農業・衛生製品などで使用される高性能ポリマーを製造。製造技術の改良や二酸化炭素回収技術の導入などを通じて、カーボンニュートラルに取り組む。

- ・ **設立年**：2019年
- ・ **所在地**：広東省惠州市大亜湾区
- ・ **親会社**：米・エクソンモービル
- ・ **主要事業**：  
包装、自動車、農業及び衛生・パーソナルケア製品に応用される高性能ポリマーを製造
- ・ **沿革（一部）**：  
**2020年**  
建設開始  
**2023年**  
R&Dセンター建設開始  
**2024年**  
1期プロジェクトが竣工
- ・ **グループサイト**：  
<https://www.exxonmobilchemical.com.cn>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	エクソンモービルは2022年、 <b>2050年までに運用資産の温室効果ガスのネットゼロ排出の目標を発表した<sup>1</sup></b> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>技術の革新</b>：製油工程をスキップすることで、伝統的な技術と比較してエネルギー消費を大幅に削減でき、汚染物排出量を削減することができた。また、汚染物排出量の中の窒素酸化物と硫黄酸化物をいずれも平均50%前後削減することができる。同等量のエチレンを生産しながら、発生する温室効果ガスは他の技術と比較して60%-70%低くなり、全体的に温室効果ガスの排出量を35%以上削減することができる<sup>2</sup>。</li> </ul> <p><b>サービスに関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>二酸化炭素の回収・貯留（CCS）プロジェクト</b>：エクソンモービルは2023年1月、広東省政府および産業界のパートナーと共同研究協定を締結し、惠州市大亜湾石化区での二酸化炭素の回収・貯留（CCS）プロジェクトの実施可能性を検証した。同プロジェクトは年間最大1,000万トンの二酸化炭素を回収する能力を持つとされており、石油化学業界のモデルとなる可能性があるため、大亜湾が脱炭素化を実現する最初の石油化学工業団地の一つになることが期待されている<sup>3</sup>。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	エクソンモービルはCCS技術において30年以上の経験を持っており、2022年時点で、二酸化炭素の回収・貯留量は1億2,000万トンを超え、これは2,500万台超の自動車の年間排出量に相当する <sup>4</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>5</sup> 。

(出所) <sup>1</sup>エクソンモービル中国 <sup>2</sup>人民網 <sup>3</sup>南方Plus <sup>4</sup> Forbes中国 <sup>5</sup>広東省生態環境庁

## 4 | 緯創資通(中山)

- コンピューター、家電、通信などの代行加工を行う。バリューチェーン全体のデジタル化を推進し、サプライヤーと協力してグリーンサプライチェーンを構築し、カーボンニュートラルに取り組む。

- ・ **設立年**：1998年
- ・ **所在地**：広東省中山市火炬開発区
- ・ **親会社**：ウィストロン
- ・ **主要事業**：
  1. 卓上型コンピュータの完成品の代行加工
  2. 液晶表示モジュールの生産代行加工
  3. サーバの完成品の代行加工
- ・ **グループ沿革（一部）**：
  - 2001年**  
企業設立
  - 2003年**  
株式上場
- ・ **拠点数**：
  - カスタマーサービスセンター  
14拠点
  - 製造工場  
12拠点
  - 研究・技術センター  
10拠点
- ・ **グループサイト**：  
<https://www.wistron.com/cn>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	ウィストロンは、科学的根拠に基づく炭素削減目標（SBT）を設定し、 <b>2030年までにカーボンニュートラルを、2050年までにバリューチェーンにおけるネットゼロ</b> を目指す <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<b>企業内の取組み</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>グリーンサプライチェーンの構築</b>：2024年8月、ウィストロンは、インテリジェントな低炭素開発プラットフォームWiZero (Wistron Zero Carbon Emission)と低炭素サプライチェーン計画への参加をサプライヤー30社に呼びかけ、そのうち7社と協力して炭素削減プロジェクトを推進し、2024年6月時点で累計6,208トンの炭素削減を達成、今後2年間で当初の計画で予定されていた8,000トンの目標を大幅に上回る1万3,000トン以上の炭素削減を見込んでいる<sup>1</sup>。</li><li>・ <b>デジタル化の推進</b>：バリューチェーン全体をデジタル化することで、中山工場の生産性を43%以上向上させ、生産コストを22%削減した。デジタル化を通じて、普通の工場から中山市最初の、広東省で8つの「世界灯台工場（World Lighthouse Factory）」の1つになった<sup>2</sup>。</li></ul>
<b>推進の背景</b>	ウィストロンは気候変動問題に積極的に対応し、包括的な緩和策と適応策を打ち出すことで、バリューチェーンの脱炭素化において、主導的な役割を果たしている。社内のグリーン電力の使用割合とエネルギー効率を徐々に向上させるほか、サプライチェーンの協力、各種プロジェクトとの協力、専門家の支援を通じて、低炭素で強靱な産業チェーンを構築している <sup>1</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>3</sup> 。

(出所) <sup>1</sup> 企業ウェブサイト <sup>2</sup> 中山市火炬区発表 <sup>3</sup> 広東省生態環境庁

## 5 | 広東紐恩泰新能源科技股份

- 空気熱源ヒートポンプ製品と関連サービスを提供。製造の全プロセスにグリーン・低炭素の理念を徹底、国際先進レベルのエネルギー効率を強みに、省エネ製品の開発に取り組んでいる。

- ・ **設立年**：2010年
- ・ **所在地**：広東省広州市増城区
- ・ **主要事業**：  
空気熱源ヒートポンプ製品の研究開発、生産、販売。  
空気熱源分野での冷暖・熱水のカスタマイズサービスの提供。  
製品例) 家庭用熱水、家庭用冷暖房、商業用熱水、クリーンな集中暖房システム、工業・農業用乾燥機等
- ・ **沿革（一部）**：  
**2003年**  
企業ブランドがシンガポールに創立  
**2006年**  
中国市場進出  
**2019年**  
三菱電機、エマソン等と戦略的提携  
**2022年**  
第19回アジア競技大会（2022年杭州）の空気熱源サプライヤー
- ・ **ホームページ**：  
<https://www.ne01.com/>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	中国のダブルカーボン目標を実現するために、空気熱源ヒートポンプの高効率・省エネ・環境保護技術を利用して、より多くの高効率ヒートポンプ製品を開発する <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーンサプライチェーンの構築</b>：ダブルカーボン目標を指針とし、製品設計、原材料調達、生産、輸送、保管、販売、使用、サービス・処理などの<b>全プロセス</b>において、<b>グリーン・低炭素の発展理念を徹底している</b>。</li> <li>① グリーン調達では、グリーン製造を強力に推進し、環境に優しい原材料を使用し、グリーン生産管理を実施。</li> <li>② 生産管理では、MES4.0スマートファクトリー（注）を建設、大量のハイテク自動化生産設備を導入し、デジタルビッグデータスマート管理システムを構築。入荷材料、工程、完成品、トレーサビリティ、サービスの全過程で厳格な検査管理を行っている。</li> <li>③ 生産の末端では、「三廃」（排ガス、廃水、固体廃棄物）の排出削減、危険/有毒/有害材料の使用削減、環境事故の発生頻度の低減、グリーン材料の購入予算の増加、エネルギー資源コストの低減など十数項目の業績目標を設定し、資源の総合的な開発及び利用と生態環境システムの良性循環を全面的に実現する<sup>2</sup>。</li> </ul> <p><b>製品に関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グリーン製品に関して、革新的な研究開発を堅持し、グリーン・低炭素技術の研究を通じて、ヒートポンプ製品のエネルギー効率は1級を達成し、国際先進レベルに入った。省エネ効果は業界のトップ5%のレベルに達している<sup>2</sup></li> </ul>
<b>推進の背景</b>	広東省の戦略的産業クラスターの重点産業チェーンの「チェーンマスター」企業として、グリーンサプライチェーン管理戦略を企業発展戦略に組み込んでいる <sup>2</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>3</sup> 。

（注）インダストリー4.0が目指すスマートファクトリー。

（出所）<sup>1</sup>企業ウェブサイト      <sup>2</sup>企業メディアアカウント

<sup>3</sup>広東省生態環境庁

## 6 | 蒙娜麗莎集團股份

- 陶磁器の研究開発および陶磁レンガなどを販売。炭素排出量が多い業種。電子システムや再生可能エネルギーの利用、陶磁器のグリーン製造技術の研究開発を通じて炭素の排出削減を推進。

- ・ **設立年**：2003年
- ・ **所在地**：広東省仏山市南海区
- ・ **主要事業**：陶磁器の研究開発、創意設計、専門生産、マーケティング。陶磁レンガ、陶磁器板材（セラミックプレート、セラミックスラブ、岩板）、ポーセリン、補助材、家具、五金（金属）・浴室製品などの販売。
- ・ **沿革（一部）**：
  - 1992年**  
前身会社「樵東牆フロアタイル工場」が操業を開始
  - 2000年**  
「蒙娜麗莎」商標を登録
  - 2003年**  
清遠市に生産基地を建設
  - 2015年**  
「蒙娜麗莎集團株式会社」へ変更
  - 2024年**  
世界初のアンモニア・水素ゼロカーボンセラミックス生産ラインが稼働
- ・ **ホームページ**：

<http://www.monalisagroup.com.cn/>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	国の「ダブルカーボン」目標に依じて、 <b>温室ガスの排出削減の管理目標を設定<sup>1</sup></b> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーン製造技術の導入</b>：2023年に仏山仙湖実験室などの企業と協力し、アンモニア・水素・ゼロカーボン燃焼技術を導入し、セラミックプレート（タイル）のゼロカーボン生産ラインの改造・建設を行った<sup>1</sup>。</li> <li>・ <b>グリーン技術の研究開発</b>：複数の大学や研究機関と協力関係を構築し、省エネ、排出削減、新材料など最先端の課題の研究を行い、科学研究成果の産業化を推進<sup>1</sup>。</li> <li>・ <b>温室効果ガス排出管理・削減</b>：①デジタル・インテリジェント化システムを通じてエネルギー消費と温室効果ガス管理を実施。クラウドデータセンターを建設し、科学的な方法でエネルギー節約・排出削減に取り組む。②物資搬送分野における水素動力のフォークリフトの運用を模索。③工場の屋上に太陽光発電プロジェクトを導入し、炭素排出削減を実現<sup>1</sup>。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	炭素排出管理を重視し、グループの取締役、副総裁がリードする集団カーボンニュートラル委員会を建設した。さらに4つの生産拠点にカーボンニュートラル実施チームを編成し、省エネと排出削減を総合的に調整し、「ダブルカーボン・ダブル削減」の取組みを加速させている <sup>1</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	同社は、広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されている <sup>2</sup> 。

(出所) <sup>1</sup>企業報告書

<sup>2</sup>広東省生態環境庁

## 7 | 華潤電力控股

- 総合エネルギー企業。炭素排出量が多い業種。社会全体の電力使用量が持続的に増加する中、再生可能エネルギー発電プロジェクトやグリーン技術の研究開発などを通じてカーボンニュートラルを目指す。

- ・ **設立年**：2001年
- ・ **所在地**：広東省深セン市南山区
- ・ **親会社**：華潤グループ
- ・ **主要事業**：  
総合エネルギー企業。  
業務は風力発電、太陽光発電、  
火力発電、水力発電、  
分散型エネルギー、電力販売、  
総合エネルギーサービス、  
石炭など多岐の分野を展開。
- ・ **グループ沿革（一部）**：  
**2002**  
買収を通じて  
中国の独立系発電事業者になる  
**2015年**  
「華潤電力（広東）販売有限公司」  
を設立、電力販売領域に進出  
**2017年**  
イギリスに進出  
**2023年**  
中国初の洋上風力発電プロジェクト  
「蒼南1号」全容量発電を開始
- ・ **ホームページ**：

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	<b>2060年までに</b> 、同社の二酸化炭素の排出における <b>カーボンニュートラル実現</b> を目指す <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>気候行動計画の制定</b>：気候変動に積極的に対応し、気候シナリオ分析を展開。気候重大リスクが会社業務に対する影響を識別し、気候行動計画を制定。</li> <li>・ <b>クリーンエネルギー資源の開発と利用</b>：風力発電、太陽光発電、水力発電などのクリーンエネルギーの建設を計画。</li> <li>・ <b>グリーン技術の研究</b>：低炭素技術と環境保護技術のイノベーション・実用化に注目し、グリーン技術の研究開発を強化。</li> <li>・ <b>効率的な資源利用</b>：省エネ技術と設備改造を推進し、水資源のリサイクルを強化。「三廃」（排ガス、廃水、固体廃棄物）の排出量を低減し、効率的な資源利用に努める。</li> <li>・ <b>環境保護能力の強化</b>：健全な環境管理体系を建設し、環境保護行動を展開することで、自社の環境保護能力を持続的に強化<sup>1</sup>。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	中国を含む190の「国連気候変動枠組み条約」締約国は2023年12月、化石エネルギーを段階的に淘汰することを合意しているため、電力システムのアップグレードのニーズがより高まっている。同時に、経済発展に伴い、社会全体の電力使用量は持続的に増加しているため、電力企業は炭素排出を増加させない前提で、成長する電力需要を満たす必要があり、二重の圧力に直面している <sup>1</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>2</sup> 。

<https://www.cr-power.com/index.html>

## 8 | 広東小鵬汽車科技

- スマート電気自動車に強みを持つ完成車メーカー。製品の設計、生産、輸送、回収などの全ライフサイクルの脱炭素化を推進。「小鵬自動車経済モデル」で気候変動リスクに対応する。

- ・ **設立年**：2015年
- ・ **所在地**：広東省広州市天河区
- ・ **主要事業**：  
スマート電気自動車の  
設計・開発・製造・販売。
- ・ **沿革（一部）**：  
**2017年**  
肇慶市に生産基地を建設  
**2020年**  
ニューヨーク証券取引所に上場  
**2021年**  
香港証券取引所に上場  
**2022年**  
ヨーロッパ初の直営店が開業  
**2024年**  
オーストラリア、フランス、  
エジプトに進出
- ・ **ホームページ**：  
<https://www.xiaopeng.com/>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	国家のカーボンニュートラル政策を遵守し、 <b>気候変動への対応を製品設計、調達、生産、販売、運営の全ライフサイクルに組み込み</b> 、気候変動リスクに対応する「小鵬自動車経済モデル」を探求し、消費者が好む低炭素新エネルギー自動車市場を作り続けている。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーン生産</b>：生産過程中のエネルギー消費を厳格に管理し、各措置を実行してエネルギー使用効率を高め、エネルギー使用を削減、クリーンエネルギー使用を推進。広州工場と肇慶工場は、冷却水システムの利用、汚水ステーション脱臭ファンの省エネ化、休暇中の工場の待機設備の電源オフ、塗装環境のエアコンの間欠運転など措置を取っている。</li> <li>・ <b>グリーン物流</b>：輸送の満載率を向上させ、水路輸送と鉄道輸送の比率を調整するなど、輸送プロセスにおける炭素排出を最小限に抑える。</li> <li>・ <b>グリーン回収</b>：廃棄電池のリサイクル管理プロセスを制定し、廃棄条件に当てはまる電池を資格を持つサプライヤーにリサイクルを委託している。また、生産ラインのアルミ板端材を100%回収・加工し、性能要求を満たすアルミ板を自動車生産に再利用することによって、生産過程におけるアルミニウム消費量を40%削減し、1台の車につき約700キログラムの二酸化炭素を削減している。</li> </ul> <p><b>製品に関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーンデザイン</b>：軽量化、高剛性設計を採用して車両の耐用年数を延ばし、車両のライフサイクルにおける炭素排出を削減し、電気駆動システムの効率を向上させている。低風抵抗設計を採用して完成車のエネルギー消費を低減し、炭素排出を削減する。2023年、同社車種の全ライフサイクルの炭素排出は同類型のガソリン車より平均26%低い。従来のガソリン車に比べ、同社が2023年に製造したEV車は、全ライフサイクルで排出した二酸化炭素を150万トン超を削減した。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	国がカーボンピークアウト・カーボンニュートラルを積極的に推進しており、新エネルギー自動車市場にとっては大きな発展余地がある <sup>1</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>2</sup> 。

## 9 | 日立電梯（中国）

- エレベータ・エスカレーターを開発・製造。グリーンサプライチェーンを構築し、包装箱のリサイクルを強化するなどして廃棄物排出ゼロの実現に取り組む。

- ・ **設立年**：1995年
- ・ **所在地**：広東省広州市天河区
- ・ **親会社**：日・日立グループ
- ・ **主要事業**：  
エレベータ・エスカレーターの開発・製造  
ビルのエコソリューションの提供
- ・ **沿革（一部）**：  
**1960年**  
日立が中国進出  
**1989年**  
中国でエスカレーター事業を開始  
**1995年**  
日立電梯（広州）設立  
**2007年**  
日立電梯（中国）に社名変更  
10年10万台で業界記録を更新  
**2021年**  
第100万台のエレベータが発送
- ・ **ホームページ**：  
<https://www.hitachi-helc.com/>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	中国の脱炭素「3060目標」および日立の環境戦略「環境革新2050」を実行し、気候変動に積極的に対応し、グリーン製品、グリーン運営、グリーンサプライチェーンによるグリーンシステムを構築し、産業界のグリーン化・低炭素化への転換を助力する <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーン運営の強化</b>：エネルギーのグリーン化への転換、水資源の循環使用、固体廃棄物の持続可能な利用の3つの分野で取組む。</li> <li>・ <b>グリーンサプライチェーンの構築</b>：グループの「グリーン調達ガイドライン」に従い、「サプライヤーの環境管理、グリーン原材料補助材料、グリーン生産、グリーン製品、グリーン包装、グリーン物流、グリーン回収、情報化管理」の8つのベクトルの取組みと「グリーン情報開示」を行い、会社のグリーンサプライチェーン管理体系を構築、整備する。</li> </ul> <p><b>製品に関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーン製品の設計</b>：「全ライフサイクル環境保護デザイン」の理念を堅持し、「プラスチックフリー」のデザインを推進する。</li> <li>・ <b>グリーン製品の製造</b>：製造のグリーン化転換を重視し、製品包装に対して包装材および技術の改善と最適化を持続的に行っている。包装箱のリサイクルを強化し、包装コストを最適化し、廃棄物排出ゼロの実現に取り組んでいる<sup>2</sup>。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	日立グループは2016年に「日立環境革新2050」の長期的な環境目標を設定・推進し、2020年に「 <b>2030年にグループ内の生産活動においてカーボンニュートラルを実現</b> 。2050年までにサプライヤーから調達し、顧客に提供し使用するまでの『 <b>バリューチェーン全体のカーボンニュートラル</b> 』を達成する」と発表した <sup>1</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>3</sup> 。

(出所) <sup>1</sup> 企業ウェブサイト <sup>2</sup> 企業報告書 <sup>3</sup> 広東省生態環境庁

# 10 | 广汽豊田汽車

- 四輪車の完成車メーカー。2050年の新車のCO<sub>2</sub>排出量ゼロを目指し、グリーン工場とグリーンサプライチェーンの構築を進め、BEV、HEV、PHEV、EVなど全面的な省エネ製品の開発に取り組む。

- ・ **設立年**：2004年
- ・ **所在地**：広東省広州市南沙区
- ・ **親会社**：日・トヨタグループ
- ・ **主要事業**：  
四輪車の開発・製造・販売。  
主な生産車種は、CAMRYカムリ（カムリHEV含む）、HIGHLANDERハイランダー、WILDLANDER ウィランダー（ウィランダーHEV含む）YARiS L致眩、LEVIN雷凌、（雷凌HEV含む）、YARiS L致享、C-HR。iA5は、3つの生産ラインを持ち、全体の生産能力は年間60万台。
- ・ **沿革（一部）**：  
**2010年**  
中国内初のハイブリッド車を発表  
**2021年**  
新エネ車生産能力拡大プロジェクト（以下拡大PJ）第1期が稼働開始。  
累計生産販売台数が600万台を突破  
**2022年**  
拡大PJ第2期が稼働開始
- ・ **ホームページ**：

<https://www.gac-toyota.com.cn/>

	脱炭素化に関する取組み
<b>CN目標</b>	「广汽トヨタ環境中期計画（2021-2025）」では、2025年までに新車のCO <sub>2</sub> 平均排出量を2010年と比べ48%以上削減し、工場のCO <sub>2</sub> 総排出量を2012年と比べ13%削減することを明確にした <sup>1</sup> 。
<b>実現方法</b>	<p><b>企業内の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>グリーン工場の構築</b>：炭素排出管理、大気汚染物質管理、水資源管理、廃棄物管理の4つの面から、自動車製造の各工程でエコを実践し、環境にやさしいグリーン工場を作り上げている。           <ol style="list-style-type: none"> <li>①太陽光発電システムの設置：第3生産ラインの屋根には1万平米の太陽光発電パネルを設置し、年間発電量は1,020万kWhに達している。</li> <li>②廃水処理システムの導入：限外濾過と逆浸透、濃縮リサイクルなどの技術を使用し、廃水は処理されるによって再利用されることができ、年間100万トンの水を節約できる。</li> <li>③VOCs全過程制御管理：水性塗料を使用し、ワニス濃縮RTO（燃焼式排気装置）を導入することによって効果的に排ガスの濃度を低減し、排出量は5.43g/m<sup>2</sup>で世界トップレベルに入っている。</li> </ol> </li> <li>・ <b>グリーンサプライチェーンの構築</b>：2020年より、サプライヤーとCO<sub>2</sub>削減目標を議論しているほか、サプライヤー環境の表彰の評価ルールを改定し、CO<sub>2</sub>削減量のウェイトを30%から50%に引き上げることで、サプライヤーのさらなるCO<sub>2</sub>削減を促進している。</li> </ul> <p><b>製品に関する取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>2050年に新車のCO<sub>2</sub>排出量をゼロにすることをチャレンジ</b>し、BEV、HEV、PHEV、EVなど全面的な省エネ製品を開発。</li> </ul>
<b>推進の背景</b>	トヨタフィロソフィーのもと、サステナビリティ基本方針や個別方針に基づき、サステナビリティ推進に努め、これまでも、そしてこれからも、トヨタグループは「社会・地球の持続可能な発展への貢献」に取り組んでいく <sup>2</sup> 。
<b>炭素取引の現状</b>	広東省2023年度炭素排出権取引制度のリストに掲載されていない <sup>3</sup> 。

（出所）<sup>1</sup>企業ウェブサイト <sup>2</sup>親会社ウェブサイト <sup>3</sup>広東省生態環境庁

## レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機関（ジェトロ）

広州事務所



+86-20-8752-0060



PCG@jetro.go.jp



〒510613

広東省広州市天河北路233号 中信広場2602室

### ■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載